



日本⇔スウェーデン 文化の架け橋になりたい!

ソフィア・ヤンベリさん

日本とスウェーデンとの国際交流の拠点である一般財団法人スウェーデン交流センターで、交流事業担当職員として勤務しているソフィアさん。日本に興味を持ったきっかけや交流センターでの仕事、将来についてお話を伺いました。

日本への興味、働くきっかけ

私の 出身はスウェーデンの首都ストックホルムです。最初に日本に興味を持ったのは、中学生の時に友達で紹介してくれた、英語翻訳の日本の少女漫画「ふしぎ遊戯」を読んだのがきっかけです。その後も日本への興味は変わらず、ストックホルム大学に進学し、日本の文化・歴史・社会・芸術を学ぶ日本研究学科に在籍していました。2年生の時には、名古屋の南山大学に留学し初めて日本に滞在しました。卒業後も社会人類学の勉強で東京の上智大学に留学し、今回の当別町で日本に住むのは3回目です。スウェーデン交流センターで働くきっかけは、ストックホルム大学の先生からの紹介です。スウェーデンで国内全土に配達される新聞 ダーゲンス ニュヘテル Dagens Nyheter で町のスウェーデンヒルズが大きく特集され、当別町を知っていたのも大きかったかもしれません。

当別町の印象など

町民の方は、とても温かいです。昨年、来町

した直後に胆振東部地震を経験しました。とても不安でしたが、近所の方が来てくれて、食事をくれたり、買い物に行ってくれたり大変感謝しています。普段の生活は、車の免許を持っていないので電動アシスト自転車が大活躍しています。自転車で本町地区までサイクリングすることもあります。

交流センターでの役割

交流センターでの仕事は、スウェーデン本国との連絡調整やスウェーデン人がセンターに来た時に通訳などを行っている他、定期的で開催している「スウェーデンセミナー」の企画をしています。特に、セミナー参加者に興味を持ってもらうにはどうしたらいいかと、テーマを決めるのに毎回苦労しています。もしかしたら、今がスウェーデンについて一番勉強しているかもしれません。堅苦しいイベントではないので、気軽に来て欲しいです。また、月1回「フィーカ」も開催しています。スウェーデンの人気クッキー（私の手作りです!）やお菓子を食べ、コーヒーなどを飲みながら、参加者とゆったりとし

た雰囲気ですウェーデンを話題におしゃべりしています。



将来について

日本は私の人生にたくさん影響を与えています。今後は日本とスウェーデンとの文化の架け橋となるような仕事がしたいです。始めは日本でスウェーデン文化を伝え、将来はスウェーデンで日本文化を伝える仕事がしたいです。実現には、もっと日本文化について勉強しなければと思っています。

ストックホルムではあまり見られなくなった、伝統衣装を着る当別の夏至祭が楽しみと話してくれたソフィアさん。どの質問にも笑顔で答えてくれるのが印象的でした。ぜひ、セミナーやフィーカなどに参加してソフィアさんとお話ししてみてください。

(5月9日取材)